

# 生徒が学びの過程を蓄積するポートフォリオで 新たな高大接続を模索

中央大学杉並高校(東京・私立)

【活用キーワード】 >> ● ポートフォリオ ● 自己探究 ● 高大接続 ● キャリア教育

## スタディサプリ 「ポートフォリオ」活用法

### ●手書きだった総合学習のレポートを スタディサプリの「ポートフォリオ」に



中央大学杉並高校ではこれまで学校行事、部活動、課外活動などのまとめを、左の「総合学習提出シート」で行っていた。現在は、JAPAN e-Portfolioにも連携できるスタディサプリ「ポートフォリオ」に集約。



### ●毎月、「必須テーマ」と 「探究テーマ」を 生徒に配付

左は、新井原先生作成の毎月の活動メモテーマ。9月の必須テーマは「学校行事の文化祭」。「探究テーマ」の参考例(研修旅行/台湾と日本の話)も書いておき、生徒が自分で項目を立て、自主的に書く習慣をつけられるように考えています

[9月のe-Portfolio]	
必須：一学期(4月)まで	「学校行事」 「文化祭」 「緑内障について」
期間：一学期(29日)	「留学・海外経験」 「海外経験」 「海外留学について」
* その他	
「台湾と日本の話」	「研修旅行」
「台湾と日本の話」	「台湾と日本の話」
「台湾と日本の話」	「台湾と日本の話」

### ●活用している生徒の声



「活動メモを始めてから、書くことの大切さを実感するようになりました。入学したときの新鮮な気持ちや、話を聞いたときの感動は、意外と忘れてしまっている。将来、国際協力の仕事に就きたいと思っているので、それに関するテーマは書くのが楽しい。特に印象に残っているのは、国連広報センターの見学や模擬裁判選手権の関東大会で準優勝したこと。人を裁くことの難しさ、法整備の大切さを実感しました。3年生になって小論文を書くときにも見返すことができるので、自分の探究テーマをたくさん書いていきたいです」(宮原志歩子さん。1年4組)

### 宮原志歩子さんの活動メモ(抜粋)

#### 必須テーマ

- 入学した今の気持ち(4月)
- オリエンテーション合宿を終えて(4月)
- オペラ鑑賞を終えて(7月)

#### 探究テーマ

- 第2回全国高校教育模擬国連大会を終えて(8月)
- 模擬裁判選手権を終えて(8月)
- 学習ボランティアを終えて(8月)
- 国際広報センターを見学して(9月)
- 日本科学未来館へ行って感じたこと(9月)

例年、卒業生の約9割が中央大学に進む中央大学杉並高校。大学受験の必要がないため、生徒の個性や興味を伸ばす総合学習や高大連携のキャリア教育には、早くから力を入れてきた。「新しい『高等学校学習指導要領』では、総則で初めてホームルーム経営の充実が謳われましたが、そうしたノウハウが既にあることも当該の強みです。しかし課題もある。受験のない付属校を標榜しているながら、内部推薦の基準はいまだに定期考査や実力テスト。点数で生徒を序列化せざるを得ない状態です。小中学校で新学力観に基づいた教育を受けた生徒が育っている。大学入試も変わる。高校でも早急に、点数主義に代わる新しい判断基準を導入しなければいけません。その一つのツールとなるのが、eポートフォリオだと考えています」と山岸竜生副校長。

**課題**  
受験がない付属高校の  
内部選考基準が、  
点数序列化ではいけない

同校がスタディサプリの「ポートフォリオ」を導入したのは、2018年4月。活用は新入試制度になる1年生を中心に、2年生までだ。導入にあたりマニュアルを作成した新井原博嗣先生はこう話す。「これまでも授業や研修旅行、高大連携プログラムの後に自分の考えをまとめる学習が多かったのですが、ポートフォリオは、手書きがパソコンやスマホに替わったという感覚です。しかし、漠然と活動メモを入力しなさいでは生徒も難しい。そこで、『毎月2つ以上のテーマについて書く』『どんな事実があり、なぜそう思ったのかを2000字程度でまとめる』をルールにしました。1年生のうち浅くても幅広い分野に興味をもてるように、芸術鑑賞会などの学校行事に関わるテーマや自分が興味をもった探究テーマを設定しています。2年、3年と進むに従い、より自己探

**活用**  
月2テーマの活動メモで  
学びの過程を蓄積。生徒の  
自己探究に結びつける

究ができるテーマ設定をしていきたいと考えています」  
生徒たちが入力した活動メモの管理は、スタディサプリの先生用画面「Toi Teachers」でできる。メモを読むことで生徒への声かけが増えたのはもちろんだが、予想外の活用場面が三者面談。「普段は知ることができない我が子の学校生活や想いがよくわかる」という保護者の声が圧倒的に多かったという。  
「最初はやらされている感があった生徒たちも、今は言葉で活動を残す大切さを理解して書いています。3年間続けければ、記憶を呼び起こして自己探究をする格好のツールになるはず。半年が経過し、生徒たちの良い文章を共有できるシステムが作れないか、学年の終わりに1年分の活動メモを振り返って自分のストーリーを書かせてはどうかなど、教員間でもさまざまな意見が出ています。活用法は無限にあると思います」と駒ヶ嶺泰暁先生。  
今後はこの成果を大学とも話し合い、新たな高大接続を模索していきたいという。



副校長  
山岸竜生先生(中央)  
高大連携担当  
駒ヶ嶺泰暁先生(左)  
1年副主任  
新井原博嗣先生(右)

### School Data

創立1963年/普通科/生徒数950人(男子468人、女子482人)/進路状況(2018年3月実績):大学進学319人(うち、中央大学294人、中央大学以外25人)、その他2人